

祥竜寺の供養塔に合祀申し上げた旨報告された。次に右の方々のご冥福を祈り、一分間の黙禱を捧げられた。

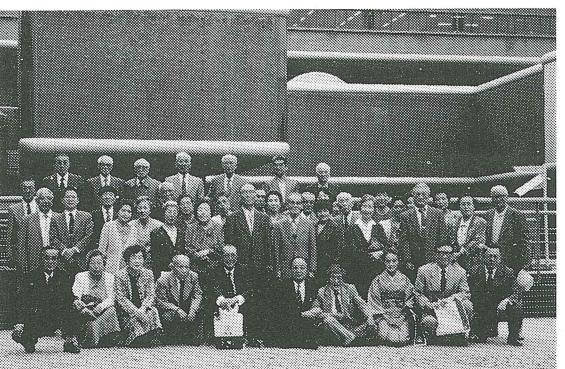
いよいよ宴にうつり、量より質に重点をおいたフランス料理を静かに堪能した。

る最新の情報と知識を人々に提供し、人類についての認識と理解を深めることを目的として設置されたそうです。

本部秋季例会

平成三年十一月十一日(月)

ロイヤルホテル雄山荘



辰巳会全国大会出席者名簿			
平成三年五月十六日	於	国立民族学博物館	
小今 十	井石 五安 阿		
原野村 上川嵐東 部			
多晶三喜	厚好幹 文孫		
喜子子郎	正恵集淨子治		
末小源河	金桂加奥大黄		
次林島野子	地田塚木		
英俊ふ芳	芳彦さ 卓		
一夫さ子	裕男郎き融也		
柘竹 武高	高田田 田田鈴杉		
植崎 井畑	木辺中 中代木村		
五百重	八一薰邦き満寿辰よ治桂		
刀吉子郎	幸子ぬ子清子巳子雄子		
横安森南	松松松藤福西柘		
計四十六名	田並 前原田下木田沢川山		
	よ正好義和か重三健有明寿		
	よしこ道子夫雄よ男郎作一子郎		

小倉幹事も、大分快方に向つて居られますが、今回は欠席、柳田幹事も高齢のため自宅で、俳句、読書三昧のご生活です。又野原幹事もあまり外出が出来ず欠席となつています。以上のような会務報告がなされました。

閉会の辞は五十嵐幹事により、
とり行われ大会は無事終了。直ちに正面ホール前で、記念撮影を行なった。これで一応の解散となり、各自館内見学は自由行動となり、お別れすることとなつた。

日本文化を他の文化との比較・関連性のうえから見直すことができるようになっています。特にビデオテープによる映像情報は大量であり、一時間や二時間の見学でゆる地域にわたり、すべての民族をとり扱っています。

八時四十五分、神戸市三宮、神戸新聞会館南側前に集合、貸切バスに乗る。

天気は良好でしたが、やや風あり乗車迄は、少し寒さを感じました。車内はほどよい気温となり落

も平均数は大分低下しました。

も平均数は大分低下しました。
バスも阪神高速に乗り順調に走り出しましたので、藤田幹事が司会のマイクをとり、五十嵐幹事長を紹介された。同氏は安並前幹事長が急死されたため、就任されたばかりで、皆さんの協力によりその責務を完うしたい旨挨拶された一同拍手をもつてその労を謝し、協力を約されたようであつた。

次いで、社務多忙の中、出席さ
れた冨木会長の挨拶があつた。

皆さんが毎々お元気で出席されること誠にご同慶と、又安並幹事長死去に伴う五十嵐幹事長就任につき、皆さんの協力を頂き共に、このよい辰巳会を盛り立てて行きたい旨その気持ちを吐露された。一同は大拍手をもつて、これに

次は公下幹事による会務報告

次に林一韓書いた。社会新報局の
鳩三さんを披露された。



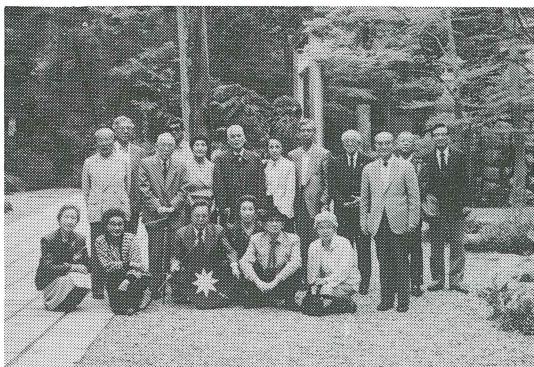
辰巳会本部秋期例会報告
平成三年十一月十一日(月)
於・ロイヤルホテル雄山荘
武 高 鈴 砂 河 金 金 奥 五十 安 阿
井 畑 木 沢 野 子 子 田 嵐 東 部
八 一 喜 薫 治 薫 芳 貞 さ 恒 文 孫
重 代 子 幸 雄 子 子 裕 子 き 集 子 净 子 治
子 郎
鷺 橫 山 柳 森 松 藤 福 西 東 築 田 辺
尾 田 本 田 下 田 沢 村 條 城
千 よし 周 秀 直 好 重 健 有 鎌 次 佳 和 滿 寿 子
鶴 こ 作 子 子 子 男 作 一 郎 子 江 子
二十八名

食後は土産物を各自、買い求める。バスの客となる。

一時頃ホテル発、三〇分位でし
原の三千院についた。

参詣客は満員の盛況、一〇分位止
くと山門前に出た。

院内は、国宝、重文の文化財、庭園の山水美、等々、日本の美を表現している。



渡る、十一時五分鹿沼自然益栽公園前に到着、先づ古風豊かな入口脇にある樹齢五百年の杜鵑花に度肝が抜かれる。雨上がりの直後か広大な園内はしつとりとして清々しい。松、杜鵑花、等の盆栽は毎年に鉢替えをするとの事で、そのご苦労のほどが窺える。あちらこちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

さつき園あれにこれにと句に困り広い園内に川の水を利用した、創作池庭の段差がある立体的な池に大きな鯉が悠々と群がつており、山紫水明とは良く言つたもので、誠に見応がする。

十時五十四分鹿沼自然公園を後にして出発。吉峰原街道を北西進やがて十二時二十五分名も名高い古峰神社に到着した。

日光東照宮より南西方向約十三粧の地点で日光に近い、バスより降りると流石にひんやりする。日本武尊が東征の途中立ち寄られた

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

さつき園あれにこれにと

句に困り

広い園内に川の水を利用した、創作池庭の段差がある立体的な池に大きな鯉が悠々と群がつており、山紫水明とは良く言つたもので、誠に見応がする。

十時五十四分鹿沼自然公園を後にして出発。吉峰原街道を北西進やがて十二時二十五分名も名高い古峰神社に到着した。

日光東照宮より南西方向約十三粧の地点で日光に近い、バスより降りると流石にひんやりする。日本武尊が東征の途中立ち寄られた

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

ところだ。丁度見頃で美しい。こちらの杜鵑花が、丁度見頃で美しい。

(16)

今村三郎（記）

秋の箱根路を訪ねて

井株式会社並びに、植田支部長よりご芳情を賜り、又、幹事の皆様より並々ならぬご配慮に、心より厚く御礼を申し上げますと共に、東京支部のよりよきご発展と、会員の皆様方の益々のご健康ご長寿を祈念して筆を擱きます。

父偲びビール戴き辰巳会

今村三郎（記）

その日の来るのを楽しみに心待ちして居りました十一月七日がやつてまいりました。

お天気は上々の日本晴です。風もなく恵まれた最高の秋日和でした。いつものように丸の内明治屋前に集まつて藤田観光自慢の超デラックスバスに乗り定刻に出発いたしました。神戸から桂先生がご参加になられ、お久しぶりにお目にかかりまして大変おなつかしく存じ上げました。出発間もなくして幹事の安東さんからご鄭重なご挨拶がありました。今日の旅行計画について先づ天候、行先の配慮についての苦労話等で笑顔させられ車内は次第に賑やかになり、なごやかさが増して来ました。今回も日商岩井さん日本発條さん柘山寿朗さんから心づくしの品々を多くさんご寄贈を戴いたことのご披露があつて一同感謝した次第です。

途中海老名S・Aで休憩、一路大

くバスは心地よくスイスイ走る。至れり尽くせりの幹事さんが、日光山の開祖、勝道上人がこちらで修業をされたものと言われている。

神社の境内より隣接せる古峯園に入る。正に一幅の名画だ。京都嵐山天竜寺の夢窓園師の作庭で曹源池のある庭園に、どこか似ているが、こちらは地蔵岳より横根山に連なる高原地帯で、しかも庭園の中に滝があり峰の池に注ぎ、実際に雄大である。この庭園の一角に赤絨緞を敷き、庭園を観賞しながら豊食の宴の予定のところが、前夜來の雨で中止、早速、峯の茶屋前で全員記念撮影して、茶屋内に場所を移し、十二時四十五分より昼食、先づ、西村幹事さんの发声で一同乾杯して開宴、ビールと日本酒を酌み交わし歓談、峯の茶屋心づくしの、岩魚のバター焼……などの季節の懐石を楽しみ満腹、食事が終り、十四時十五分出発帰路につく。

今日はめぐまれたのか渋滞もな水浴でビールを三ダース平げたとか、流石、鈴木で鍛えられた古強者、明治男は大したものだ。半世紀以上以前の、先の大戦で父が從軍中戦地で作った、句

米船鉄交換契約の貿易実務に携わっていた時分の若かりし頃、海に耽つていては、本経済史並びに世界経済史に残された、偉大な足跡の一つである日

帆ビールを配られる。ORAN-BEERこれはまことに旨く、実際に雄大である。この庭園の一角に赤絨緞を敷き、庭園を観賞しながら豊食の宴の予定のところが、前夜來の雨で中止、早速、峯の茶屋前で全員記念撮影して、茶屋内に場所を移し、十二時四十五分より昼食、先づ、西村幹事さんの发声で一同乾杯して開宴、ビールと日本酒を酌み交わし歓談、峯の茶屋心づくしの、岩魚のバター焼……などの季節の懐石を楽しみ満腹、食事が終り、十四時十五分出発帰路につく。

今日はめぐまれたのか渋滞もな水浴でビールを三ダース平げたとか、流石、鈴木で鍛えられた古強者、明治男は大したものだ。半世紀以上以前の、先の大戦で父が從軍中戦地で作った、句

米船鉄交換契約の貿易実務に携わっていた時分の若かりし頃、海に耽つていては、本経済史並びに世界経済史に残された、偉大な足跡の一つである日

帆ビールを配られる。ORAN-BEERこれはまことに旨く、実際に雄大である。この庭園の一角に赤絨緞を敷き、庭園を観賞しながら豊食の宴の予定のところが、前夜來の雨で中止、早速、峯の茶屋前で全員記念撮影して、茶屋内に場所を移し、十二時四十五分より昼食、先づ、西村幹事さんの发声で一同乾杯して開宴、ビールと日本酒を酌み交わし歓談、峯の茶屋心づくしの、岩魚のバター焼……などの季節の懐石を楽しみ満腹、食事が終り、十四時十五分出発帰

日に限つて特別扱いなのか遠方に見える富士山がくつきりと手にと

るよう見えこれ又素晴らしい。

案内者の話によると何年振かの絶景だそうです。静かに天空を眺め、

瞼を閉じること数回東京の中心とは天地の差が感じられました。



母に聞いた話から

小学四年生の頃だったと思う。或る日母が語った事が今も忘れられない。時々思い出しても、母をなつかしみ、昔々は色々な事があつたのだ。

明治時代全国の藩をやめて県を置いた政治の大改革が行なわれた。いわゆる廢藩置県である。その頃、志をいだいた多くの人々は殺されたり、尊い命を亡くした人々がある。桂浜に銅像のある、坂本龍馬もその中の一人であろう。龍馬は脱藩して夜半に高知の山を越えて徳島に出て江戸に行つたが、志半ばにして、殺された。明治の志士の墓が二十何基か、ずらりと並んで高知県の田野と云う所にある。

廢藩置県のため、土農工商といふ言葉も使わなくなり、全国民は津々浦々で「よいじゃないか。よいじゃないか」と三日三晩踊りつづけたそうである。私の父の弟に三才になる男の子がいて、その賛

一呼吸して全員で記念写真を撮つて戴き、あとは芦ノ湖へと：右手に湖水を眺めながら帰途につきました。ガイドさんの説明によると湖上には海賊船の姿も見え、楽しくなりました。一度は乗つて

みたい様な気もして……。

小田原では蒲鉾製品で有名な鈴広商店に立ち寄りそれをお土産

を手にして帰京することになりました。車内ではいろいろのおもてなしを頂き又何よりの新鮮なお土

産まで頂戴しきわめて和やかな樂回にお会いするのを楽しみに皆様とお別れいたしました。いつもな

がらお世話頂きます幹事様の至れり何んせりのお心配りにただただ感謝申し上げるばかりでございま

す。
ほんとうに有難うございました。
(A・N記)

◆原稿募集	
内容	隨想 短歌 俳句 詩
写真	鈴木往時の思ひ
出	近況などを
必ず原稿用紙に縦書きで	
締切	平成四年五月末日
送先	神戸市中央区磯辺通 一丁目一ノ三九 太陽鉱工株式会社内 「たつみ」編集部宛

◆平成四年米寿銀盃並に喜寿祝賀呈者

米寿の方(明治三十八年生)

仁賀利一 國廣五郎
田中 清 加治彦太郎
小倉五郎 上野金治
西村鍊次郎 山口義雄
室谷山水 計九名

加藤福雄

無作田に咲きほこりたる荒野菊
彫刻の森ゆえ空の高かりし
早川を右に左に雑草葉

噴煙の上がりて秋の雲と合ふ
秋深し箱根の雲のたたづまひ

富士の雪真赤と見たる画伯はも
近過ぎて富士の見えざる晴の秋

ピカソの絵色彩ゆたか秋の声
そこそこに野天風呂あり旅の秋

芦ノ湖の金波銀波や暮の秋
箱根路や昔の旅の身に入みて

喜寿の方(大正五年生)

請川 啓 藤田健作
芦原有 一 計三名



わいと踊り狂う中に、まぎれ行方不明となり、八方手をつくしてもとうとう分からなく、踊り狂いがやんだ後に、大川の橋上にころがり、ふみつぶされて死んでいたのである。尼ヶ崎での事である。岡田の親戚にも同じ様な事があつた。岡田家は土佐の高知であるが、やはり三日三晩踊り狂う群衆にまぎれ込んで、ふみつぶされて死んだ三才の男子があつた。と亡夫から聞かされた。

小さな小さな墓碑が土佐の墓地にあり、これがその子の墓だと主人から聞いた。家族の大人たちの、不注意からおきたいたましい事件もかも変つた。報道も早くなり遠い国々の事も早々と知る事が出来れども、世の中は何もかも變つた。金さえあれば何でも買え、海外旅行にもやすやす行ける時代である。二百年ぶりに雲仙岳は怒りをのらせて、三千五百人に避難勧告が出された。大自然の偉大さに人間は勝てない。にげるしかない。いつしか、私は静かな浅間の噴煙を見た事があり、美しいと詩心を湧かせたが、今の雲仙岳は命がけである。

ペルシャ湾の機雷除去のため、日本の海上自衛隊がクウェート沖で掃海作業をする事になつた。私の庭には、赤いさつきが咲き、紫陽花が小さい緑色の玉をつけ、庭隅に十葉の白い花が十字に咲き、木々の繁りは一段と濃くなつて来て、先づは恙なく余生の一トドを送る事が出来た。

昔は新聞社が号外といふものを出した。たとえば大地震とか、政治家が暗殺されたとか重大な事件や事故が発生した時号外が出た。

世界の学者、政治家、国王、大臣